

新興感染症流行に備えた院外心停止患者の予後予測システムの開発

京都府立医科大学附属病院（以下、当大学）では、日本循環器学会蘇生科学検討会JCS-Ress グループが実施している「日本の院外心肺停止の現状把握および問題点の抽出、心肺蘇生法の普及、蘇生科学の発展」を目的としたウツインデータを用いて院外心肺停止症例の実態調査を実施しています。この研究は実施にあたり京都府立医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究機関の長より適切な研究であると承認されています。

（注）ウツインデータ：総務省消防庁が日本の院外心停止患者の現状を把握し調査するため収集しているデータ。患者背景、蘇生処置や救急搬送など傷病者の経過に関する情報で構成される。

研究の目的

COVID-19流行により院外心停止患者に対する救急医療の質が低下し、死亡率が上昇したと報告されています。本研究ではCOVID-19パンデミックのような新興感染症流行時の逼迫する救急体制でも適用可能な院外心停止患者の高精度の予後予測システムを開発し、予後に見合った適切な治療方針の選択により、我が国の救急システムの改善や逼迫する救急医療の負担軽減、生前意思を尊重した患者主体医療を実現することです。

研究の方法

・対象となる方について

2005年1月1日から2022年12月31日までのウツインデータに登録された全年齢の院外心停止の患者さん全員からデータ収集を行い、脳神経学的予後良好者と生存者を選定します。

・研究期間：医学倫理審査委員会承認後から2026年12月31日

・方法

ウツインデータを用いて、院外心停止患者さんの予後や発症に関わる因子を分析します。またそれらの予測方法を新たに開発し、COVID-19流行前後や流行・非流行地域で比較して検証を行います。

・研究に用いる試料・情報について

情報：1か月後生存予後、脳神経機能予後、発症年月日、時刻、性別、年齢など

・個人情報の取り扱いについて

氏名、生年月日、住所などの個人を特定する情報はすべて日本循環器学会蘇生科学検討会が定めるデータ運用管理規定に従い、外部と隔離された情報端末によって厳重に管理します。なお本研究の成果を学会や学術雑誌等で公表する場合や特許などを申請する場合には、個人が特定できないような形で情報を使用します。いかなる状況においても患者さん

の情報が漏洩しないようプライバシーの保護に細心の注意を払います。

・試料・情報の保存および二次利用について

保存した試料・情報を用いて将来新たな研究を行う際の貴重な試料や情報として、前述の保管期間を超えて保管し、新たな研究を行う際の貴重な試料・情報として利用させていただきたいと思っております。新たな研究を行う際にはあらためてその研究計画を医学倫理審査委員会で審査し承認を得ます。

研究組織

研究責任者

京都府立医科大学附属病院・所属：循環器内科 西 真宏

研究代表者

京都府立医科大学附属病院・所属：循環器内科 西 真宏

研究分担者

京都府立医科大学附属病院・所属：循環器内科 的場 聖明

京都府立医科大学附属病院・所属：循環器内科 志熊 明

京都府立医科大学附属病院・所属：救急医療学教室 太田 凡

事務局：

日本循環器学会蘇生科学検討会（JCS-ReSS）事務局（総務省消防庁からの情報提供、研究者からのデータ利用申請承認とデータ提供を行う。）

お問い合わせ先

情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2023年12月31日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

京都府立医科大学附属病院 循環器内科

西 真宏 TEL：075-251-5111 対応時間：月～金曜日 午前9時～午後5時